生命の曲線を表現しよう

―種子の落下曲線をつくり、伸びゆく植物の曲線を描く―

西原有香莉（和歌山大学・美術教育ゼミ）

和歌山大学教育学部附属小学校2年生
指導：西原有香莉，2011

題材コンセプト

本題材は、2つの題材を前後に連結させたものである。前半には「造形遊び」として舞い落ちる種子の様子を身体や立体で表現する（造形遊び）。後半にはその種子から生えてくる植物を想像して「絵で表す」活動（描画）。

前半では、種子の落下曲線を身体運動で表し、ホースでその曲線を造形する。直接的な身体的表現活動での曲線体験が、全身の力と触覚で3mのホースに挑む活動を生むのだが、最後の鑑賞活動では、徐々に視覚的なアプローチに導かれて前半は終了する。

後半は前半の造形遊び体験を想起させつつの描画。視覚が先導する描画活動でも前半の身体体験が大きな効果を見せることは、前半抜きの指導を実験的に行った結果と比較すれば明らかである。

【ゆらゆら・くるくる種の落ちる道をつくろう】

1．題材観

自然界には美しい曲線があふれている。曲線に生命的で有機的な美しさを見たアール・ヌーヴォーのように、古くから自然の曲線は美術にとってインスピレーションの源泉であり、モチーフであった。本題材では、回転しながらゆらゆらと落下するニワウルシ（シンジュ）の種子の飛翔の様子に着目し、その道筋をたどることで曲線について感覚体験するところから活動を始める。そしてその種子の軌跡を体で表現し、次には立体で表現する活動を通して、徐々に線の視覚的学びを深めていく。線の立体表現の活動では、中心に針金を通したホースを使用する。何度も作りかえることができるため、追求と試行錯誤を可能とする。更に線を立体表現によって視覚化することは、それぞれの線の共有につながると考える。

和歌山大学教育学部附属小学校2年生　指導：西原有香莉，2011

2．学習目標

(1) 螺旋を描く種子の飛跡に曲線の美しさを感じることができる。[関心・意欲・態度]

(2) 種の動きや曲線の面白さを体の動きや言葉で表現し、多様に曲線作りを試みることができる。[発想・構想の能力]

(3) 落下する種子の様子を身体の動きを使って表現することができる。[創造的な技能]

(4) ホースや針金の特性を生かし、曲げ具合から有機的な曲線の流れを効果的に表現することができる。[創造的な技能]

(5) 友達の表現（身体表現や造形表現）のよさに気づくと共に自己の表現を、視点を意識しながら鑑賞することができる。[鑑賞の能力]

3．学習の流れ・指導計画

■**第一次**：ニワウルシの種子と紙模型を飛ばして遊び、舞い落ちる様子を観察する。
（**0.5** 時間）

■**第二次**：種飛軌跡を指でなぞり、表現することで、有機的な曲線を身体表現し、再確認する。
（**0.5** 時間）

■**第三次**：グループでイメージを交換しながら、天井からつるした **3m** のホースで種子の飛翔の軌跡をつくる。また一番見てほしい視点を探し、写真に撮る。（**1** 時間）

■**第四次**：スライドでグループごとの作品を鑑賞し、線の視覚的体験を深める。（**1** 時間）

4．指導のポイント・学習のフォーカス

ニワウルシの種子はプロペラのような羽がある。その種子を見せ、興味を喚起して導入を行う。「どんな落ち方をするだろう？」となげかけた後、飛ばして見せると強く興味を惹かれていた。不規則的に回転しながらゆらゆら落ちる種子。それに加えて、きれいに旋回しながら落ちる模型の種子を飛ばすことで、規則的な曲線と不規則的な曲線を感覚的に体験する。また、別教室に天井からホースをつるしておき、制作時にそこに移動することで、非日常的な空間と子ども達が出会いを演出した。

各グループの作品の鑑賞は、身体的な世界から的な線の世界へと移行する重要な時間であることから、線の形態に注意するよう促した。

和歌山大学教育学部附属小学校 **2** 年生　指導：西原有香莉，**2011**

5．鑑賞と批評

第一次では、椅子に登って飛ばすなど、自分なりに活動を発展させていた。第二次では、「ひゅ～」と言いながら種子の軌跡を表現していたり、指を細かく動かしながら表現する児童の姿が印象的だった。

第三次においては、グループ毎に多様な表現が見られた。図 **1** は、手分けして造形し、全員の思いが反映された作品。図 **2** のグループは作品が回転する様子を楽しみ、最後は寝転んでの鑑賞。制作過程から線の鑑賞を深め、多様な見方を発見できた。図 **3** は、下から見た渦巻きの形状にこだわり、きれいな渦が作れた。「造形遊び」から始まり「立体」との領域を行き来しながら、曲線の美しさや線が持つ造形性の学びの深まりがあった。

図 **1**

図 **2**

図 **3**、左に同じ

【大きく伸びろ！くねくね植物】

1．題材観

後半は、曲線の生命的な美しさを感じながら描画する。前半の学習における“線”の造形の学びが生きる指導としたい。前半の学びの意義を検証するために前半の活動抜きでの実践をして、その結果を比較し、前半の活動の効果を明らかにすることを試みた。

また描画過程で、葉や花、虫などを物に描き加えるという欲求が生まれることも期待したい。

2．学習目標

(1) 曲線やかたちの美しさに興味を持ち、全身を使って描画活動に取り組むことができる。**[関心・意欲・態度]**

(2) 前半の学習をふまえ、成長していく植物の曲線を発想することができる。**[発想・構想の能力]**

(3) 精神を集中し、体全体を生かして、曲線を描画することができる。**[創造的な技能]**

(4) 自分や友だちの線の質や曲線のかたちについて、そのよさや違いに気付き、視覚的に味わう。**[鑑賞の能力]**

3．学習の流れ・指導計画

■第一次：柔らかな線を描くために、手や筆の使い方について留意する。（**0.2** 時間）

和歌山大学教育学部附属小学校 **2** 年生　指導：西原有香莉，**2011**

■第二次：種子から生え伸びる植物を描く。三種の緑色を使い、毛筆用の筆で模造紙（**1091mm×400mm**）に描く。（**0.8** 時間）

和歌山大学教育学部附属小学校 **2** 年生　指導：西原有香莉，**2011**

4．指導のポイント・学習のフォーカス

前半の学習の振り返りから始める。前半は種子の落下が題材であったことから、本時ではその落下した種子から植物を生やすことに物語をつなげ、関連性をもたせて導入する。腕や手首の動き、力の強弱に注意し、絵の具と自身の運動が一体となって生み出す線に生命感を感じながらの制作を期待した。また、描いた植物に花や虫などを付け足すことについては、児童の思いを生かす方向で支援した。植物を描く過程で物語を見出し、太陽や果実などを描き出すことは子どもの自然な表現であろう。

前半の活動を行わない（検証のための）実践では、身の回りの植物を思い出すことから導入し、描画の指導は、上記と同様に行った。

左に同じ

5．鑑賞と批評

子ども達は絵の具や筆の感覚を楽しみながら、大きな紙に体いっぱい使って筆を走らせていた。あふれるエネルギーをぶつけように線をどんどん描いていたり、植物がゆっくりと着実に伸びていくように線を描く児童など、様々な造形の姿があった。

図**1**は、線が複雑に入り組んでいる形態のおもしろさに気付き、色を変えるなどの工夫をしながら、ひたすら線を重ねていた。うねうねと生い茂る植物の様子がよく描かれており、生命力が伝わる作品である。

図**2**に描かれている中心の茎の線からは、力強く描いた姿が目に浮かぶようである。そして、中心から枝分かれして生えている細い線の形態は複雑で、うねうねと動き出しそうである。このような線を描くのには手首をうまく返す技術が必要である。そしてその描線を楽しんだことが、軽快な線から伝わる。

ここで、前半の活動を抜きにしたクラスの児童作品と比較していきたい。比較して特に大きく分かったのは、①線を描くことを楽しんでいたこと②線自体までも「絵画」表現や「デザイン」表現として捉えていたこと、の**2**点である。①が分かる作品として図**3**、**4**をあげる。図**3**は前半の活動なしの作品で、たくさんの余白に植物を中心とした物語を描いている。それに比較すると図**4**は何度も線を描き、描線活動を楽しんでいるようである。②が分かる作品としては、図**5**、**6**をあげる。図**5**が後半のみの実践による作品で、子どもが概念として持っているイメージの植物が描かれている。図**6**は児童の意識としては植物を描いているが、結果として迷路のようにも見える。画面いっぱいに線を描いている構成からは、自身が先に描いた線から刺激を受け、想像を広げ、身体感覚的線が画面構成を意識した線の創造の活動へ変化していったこと予想する。画面の上で行なう線遊びが視覚を主とした形態としての線へと展開されていたことがわかった。

[本題材開発は、2011年度卒業研究の一貫として行ったものである。]

図**1**

図**2**

図**3**

図**4**

図**5**

図**6**

和歌山大学教育学部附属小学校**2**年生　指導：西原有香莉，**2011**